

令和5年度「宇都宮市学校教育推進懇談会」会議録

■ 日 時 令和6年2月6日（火）10:00～11:30

■ 会 場 宇都宮市庁舎14A会議室

■ 出席者
(委員)

人見 久城 会長，福田 治久 副会長，森崎 恭宏 委員，福田 陽 委員，
後藤 令子 委員，西園 多佳子 委員，上野 栄一 委員，梅澤 圭子 委員，
堀場 幸伸 委員，角田 好弘 委員

(事務局)

教育長，教育次長，学校教育担当次長，教育企画課長，教育企画課総務担当主幹，
学校教育課長，学校健康課長，生涯学習課長，文化課長，スポーツ振興課長，
教育センター所長，学校教育課課長補佐他

■ 会長，副会長の選出について

委員の互選により，会長には人見久城委員，副会長には福田治久委員が就任した。

■ 委員からの主な意見・質問等（要旨）

○「第2次宇都宮市学校教育推進計画 後期計画」について

(資料2-1，資料2-2)

○資料の読み方についての質問 なし

○「第2次宇都宮市学校教育推進計画 後期計画」の令和5年度取組状況について

(資料3)

会 長：基本目標1，2について，御意見はいかがか。

委 員：基本目標2・基本施策(1)補足指標について，目標値の「おおむね達成している」について，「達成している」のではないかと思うが，いかがか。

事 務 局：表現の間違いである。達成している。
(学校教育課)

委 員：基本目標1(1)・基本施策(1)補足指標について，目標77.8%に対して，実績70.5%，「おおむね達成」となっているが，それでよいのか伺う。基準年に対して現状値が下がっているが，こちらは令和6年度はまた上がるという予測か見解を伺う。

事 務 局：補足指標については，おおむね達成で差し支えないと考えている。令和6年度については，目標値に迫りつつように取り組みたい。
(学校教育課)

なお，「学習した内容について，分かった点や，よく分からなかった点を見直し，次の学習につなげている」という補足指標は，ペーパーテストでは図るのが難しい内容であるが，これからの時代において必要な力として，日本のみならず，世界で取り組まれている資質・能力の一つである。委員御指摘のとおり，下がってきているのは気になる場所であるため，この資質・能力の育成の手立てが盛り込まれている「宇都宮モデル」のより一層の周知に努め，よりよい

授業づくりを通して、改善していけるよう、学校とともに取り組んでいきたい。

委員：基本目標 2 (2) U-STEAM 学習について、どのようなことを実施していく予定なのか教えていただきたい。

事務局：U-STEAM 学習について、高等学校で行われる STEAM 教育の基盤となるような先端技術や教科等横断的な学習を進めるということを目標に、令和 6 年度に小学校、令和 7 年度に中学校において、取組開始を予定しており、プログラミング教育の年間指導計画の見直しを図るとともに、デジタルシティ体験というバーチャル空間での社会科見学の素材等を活用した授業が展開できるよう計画をしている。

委員：基本目標 1 (3) の体力について、令和 3 年度は男女差が開いているが、性差が少しずつなくなっている。性差による結果の開きの意味合いについて伺う。

事務局：新体力テストは 8 種目あり、女子の方が点数が高く出る傾向があるが、コロナ禍の影響が大きく、課題となっている。今後とも、運動の機会を確保することで体力の向上を図る。

会長：要因等も分析されている。今後の方向性については、運動の機会を確保することで体力の向上を図るところで、目標と対応させるように検定などを活用するなど大事な体力向上の取組である。

委員：基本目標 1 (3) の「運動能力を達成していない」について、コロナ禍の影響で女子の結果に伸び悩みがあるとあったが、マスクの問題があることについて取り上げる必要性があるのではないかと考えている。女子生徒はマスクを外さない傾向があり、そのような状態では体力は向上しない。マスクの着用については子どもたちに選択をさせているが、マスクを着けたまま運動に取り組んでいるのは、大きな問題ではないかと考えおり、結果につながっているのではないかと考える。また、基本目標 1 (1) 「全国学力・学習状況調査について、国語、数学ともに全国の平均正答率を上回っている」について、語彙力が上回っているが、読解力は下がっているように思う。読書量が近年減ってきている。今後は、読解力についても注目していく必要があるのではないかと考える。

会長：マスクは任意だが、運動の時は教師から声掛けをすることも検討した方がよいのかなと思う。事務局においては、学校の様子を引き続き観察し、適切な指導に役立てていただきたい。

委員：基本目標 1 (3) 体力について、小学校では二極化が進んでいる状況である。運動している子はコロナ禍でも運動しているが、運動に興味がな子はゲームをする等、外遊びには抵抗がある。運動しない子の底上げをどうしたらよいか小学校における大きな課題となっているが、市から「うつのみや元気っ子チャレンジ特別版」という新しいものを出していただいている。中学校の部活動地域移行に関連して、土日どちらかが休み、あるいは全体的な運動量が減ってしまうことがあり、体力をどのようにつけるかということが問題となっているが、運動に取り組むことが好きではない子の底上げをど

のように考えているかお聞かせいただきたい。

事務局：学校から発信できるように「うつのみや元気っ子チャレンジ特別版（一人でできるもの）」を年3回実施している。まずは興味関心をもたせる取組を行い、次に学級やグループにおいて、縄跳びやボール等を活用した取組により興味関心を高め、家庭での取組にも広げるといった流れとなっている。

会長：やりがいや手ごたえを感じる事が第一歩であるので、期待したい。

委員：基本目標1（3）体力について、先の委員もおっしゃった二極化、部活動の地域移行が進んでいる中で、体力を上げていくのはかなり難しい。部活動が地域移行化するとますます運動離れが進むのではないかと。いかに興味をもたせるかを考えないと運動離れが進むという危機感をもっている。自宅近くの公園に集まる子は遊ぶのではなくゲームをしている。男子生徒のボール投げは、右手投げで右足が出るなど明らかに経験が減っていると感じる。グローブを付けたのが初めてという生徒も半数以上いるのが現状である。興味をもたせることが重要な課題になると考えている。

委員：基本目標2（1）英語教育について、最近の高校生の英語力が抜群に上がっているように思う。ものおじせずにコミュニケーションを取ろうとしている。小中での取組が確実に高校で表れている。是非このような取組を続けてほしい。ICTを活用した外国人との交流について、本校でもオンラインでつなぐなどのICTを活用した取組を行っているが、小中学校ではどのような取組を行っているのか伺う。

事務局：ALTを活用してオンラインで英会話教室を行っている。公立学校のみならず国立私立にも呼び掛けている。トピックについて、海外の文化について学習する機会を設けている。また、すべての学校ではないが、海外の日本人学校等とオンラインで教室をつないでやり取りをしている例もある。

会長：今後、広がっていくことを期待している。今の子どもたちは見直し、自分ができなかったところはどこかを見抜く力が求められている。大人になったときに大事な力であるため、数値が上がるように期待している。

会長：基本目標3～6について、御意見はいかがか。

委員：20年ほど前と比べて、今の学校は落ち着いていると感じている。しかし、小学生のこやかなあいさつと比べて、中学生のあいさつは、硬い印象を受ける。また、いじめ問題については、いじめられた側に対するカウンセリングは一生懸命行っていることが分かるが、いじめる側の心も心配である。いじめる側へのカウンセリング等のケアもお願いしたい。

事務局：いじめについて、まずはいじめられた児童生徒へのフォローやケアを第一に取り組むと同時に、いじめている側の理由や背景を分析し、必要なカウンセリングや治療、指導などを行うように努力している。まだ十分ではないところがあるが、教育委員会としては全力を挙げて両者に対応していきたい。

会長：基本目標3（2）児童生徒の様々な状況に応じた指導・支援については、状況に合わせた対応が大切となり、例えばU@りんくすなども効果が期待される。

委員：3（2）不登校児童について、私立学校は公立学校との連携がコロナ禍で進んだ。市教育センターやまちかど教室、適応支援教室等との連携をしている。たくさんの不登校が出てしまった学年が今の中学3年生だが、周りのサポートがあり、ありがたかった。今後不登校児童生徒は減るといよりは横ばいになるのではないか。家庭環境や経済状況、親との関係などが原因の不登校もある。より一層の連携をお願いしたい。次に、基本目標4（3）働き方改革について、業務の効率化を図ってはいるが、対面の授業を大切にしたい、子どもと向き合う時間をしっかりとりたいという意識の高まり、効率的にと意識はあるが、在校時間は伸びている。教育委員会と連携しながら、教員の思いも大切に進めていきたい。

委員：3（2）不登校児童への支援について、U@りんくすの取組が素晴らしい。誰とも関われなかった子が、仮想空間の中でできるのは素晴らしい。不登校の子の中には夜遅くまでゲームをしていて、ほとんど人と会わない生活をしている子もいるが、ぜひ、仮想空間の中で人と関わるよろこびを合わせて味わっていただけるような支援を強めてほしい。

事務局：U@りんくすには、私学からの児童生徒も含めて、現在63名が通っている。
(教育センター) 午前10時、午後1時にホームルームを設定し、規則正しい生活や他者との関わりができるようにしている。人との関わりという面では、チャットなどで話す活動を設定しており、話すのが苦手な児童生徒はリアクション機能を使ってコミュニケーションをとることもできる。人とつながることを意識している。学校に行く行かないに関わらず、学びの機会を提供している。

委員：不登校に関連して、学びの機会の保障についての御尽力が伝わった。前年度の会議の際、家庭との連絡が取れないケースが3分の1くらいあるとおっしゃっていたのは、その後どうなったかについて伺う。また、情報提供として、コミュニケーションの場として、家庭以外の子どもの居場所について宇都宮でもかなり増えてきており、短時間利用などで実際に不登校児童生徒が利用しているケースもある。いろいろな場所があるという情報提供である。

事務局：63名ですべてではないが、ほとんどのお子さんは学校との連携がうまくい
(教育センター) かなかなくて、教育センターに直接来て手続きをとっている。保護者についても、オンラインで児童生徒の様子などについてやりとりができるようにしている。子どもの居場所については今検討しているところである。子ども食堂や、放課後は学校に行けているお子さんに対して、どのように支援していくかについては、現在、検討しているところである。

委員：宇都宮は様々なことを先進的にやっているのも感謝している。U@りんくすなども学校としても助かる。コンタクトをとるきっかけになったり、人と関わることのチャンスが広がったりしているということでも感謝している。基本目標4（2）チームで取り組む一員として、ICT支援員さんの配置もとても助かっている。デジタル連絡ツールさくら連絡網の導入については印刷代の削減、ペーパーレス化の推進とともに、出欠の把握もしやすい。感謝申し上げます。

副会長：素晴らしい活発な御意見をいただきありがたい。これだけいろんな角度からの問題をしっかりとらえていかないと子どもたちの未来が守れない状況であるため、地域連携、U@りんくすなど、宇都宮市の取組はとても素晴らしい。私は、教育行政に係る国や県の部活動の地域移行や、働き方改革の会議などにも出席しているが、話題が尽きないだけでなく、今後より複雑化が進むのではないかと感じている。そのため、しっかりと議論をした上でいろいろなものを前に進めたいと考えている。資料外ではあるが、地域未来会議の位置付けはどんな状況か、中学校において、全校実施はできたのかについて伺う。

事務局：コロナが明けて、全校で実施できている。
(学校教育課)

副会長：今後の地域未来会議は、キャリア教育の一環として推進していくのか、コミュニティスクールとの関連を図っていくのか、その位置付けは、いかがか。

事務局：地域未来会議は、子どもたちに社会参画する力を育成する上で、重要な機会だと捉えている。自分たちで考えたことを大人と語り合っただけでブラッシュアップし、結論をまとめるものであり、全ての子どもたちに、大人に認められたという感覚を中学校で卒業までに体験させたいと考えている。現在、第2弾として考えているのは、みんなで決めたことを実際にやってみたら世の中は変わるのか、または、変わったという体験をさせたいと考えている。地域の方の御協力を得ながら、子どもたちの社会参画する力を育成する場として大切にしていきたいと考えている。

会長：活発な御意見、ありがとうございました。

子どもたち、教職員、保護者の皆様、地域の皆様が支え合っていることが確認できたと思う。

うまくいっていることを評価していただきありがとうございました。また、課題についても、御意見ありがとうございました。